



地域日本語支援ニュース こだま 第 297 号

2016.5.26



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

====目次=====

1■ともに生きる「私の驚き、発見」

文化の違いも「異国の暮らしの魅力」 新井 ナートタヤー

2■新刊紹介■AJALT の漢字教材に新刊が加わりました

3■6 月 10 日発刊 機関誌『AJALT』39 号のご紹介

4■AJALT の著作教材を活用した

2016 年度日本語教師のための夏の教え方講習会

=====

1■ともに生きる「私の驚き、発見」

文化の違いも「異国の暮らしの魅力」

～学校での関わり方など外国人へのサポート組織はほしい～

新井 ナートタヤー

-----  
タイ出身の新井ナートタヤーさんは、母国で日系企業に就職した際、研修のために 1 年間日本に滞在しました。その後、結婚し、埼玉県  
の北本市に暮らしてほぼ 20 年になります。新井さんにとっての、異  
国での「驚きと発見」を書いていただきました。  
-----

私は生まれも育ちもタイです。タイ北部にあるチェンマイ大学を卒業後、就職先は日系企業でした。会社の研修生として、日本語学校で 1 年間日本語を学びました。終了後、帰国し、同社の生産管理部で翻訳や通訳などを担当しました。

東京の日本語学校に通う 1 年の間は、いろいろな驚きと発見がありました。日本語や文化、習慣などよく分からない状態で来日したので、慣れるまでかなり大変でした。

電車に乗るのも初めてですし、東京の人の多さや人々の忙しそうな様子などを目にして驚きの連続でした。特に駅のホームの人混みを初めて見たとき、人と人のぶつかり合いで線路に落ちたらどうなるかと想像しては、怖くてホームの真ん中を恐る恐る歩いていました。通勤通学時間帯の電車の中は、まるで缶詰のようでした。電車に乗り遅れた人が駆け込み乗車して、駅員さんは駆け込みした人の体のあらゆる部分を押し込んでやっと電車のドアがしまって出発出来た光景を毎日のように見ていました。当時は不思議で複雑な気持ちでしたが、今では慣れて来て、これは日本の独特な風景だと思っています。

初めて見た日本の発展の凄さは感動しました。戦争に負けたけれど、忍耐と勤勉と強い精神なら誰にも負けてはいない日本人を感じました。少資源で厳しい気候、過酷な戦争の後の環境を乗り越えて、世界のトップまで昇りつめ、様々な発展を実現出来た日本にはすごく感心し、自分の故郷であるタイにも真似してほしいくらいです。

私はその後、結婚して 20 年近く埼玉県北本市に住んでいます。主人と義理の母と 3 人の子供と 6 人家族です。家族と暮らすことは日本語を勉強しに来た時との違いが多すぎて、最初は戸惑う事が多々ありました。近所との付き合い、年間行事の関わり、嫁という立場など、一からスタートという状況でした。運が良く、親戚や自分の周りの方々が皆さん優しく接してくれて、色々なことを教えてくれたお陰様で今の自分がいます。日本で学ぶことはたくさんあります。それは異国の暮らしの魅力だと思っています。

日本の教育制度はタイと同様です。この点に関しては助かっていますが、大きく違うのは、タイの学校では入学式と卒業式以外の行事はほとんど保護者が学校に行きません。学校側との関わりはほとんどありません。一方、日本では幼稚園の時から保護者は様々な行事に参加することが多く、最初は「なぜ親はこんなに学校の行事に関わらなければならないのか」とよく理解出来ませんでした。今では日本の教育方針や保護者と地域の人々との関わりの良さが理解出来るようになって、この制度は日本だからこそうまく出来ると思います。タイでは途上国なので、多くの人々は生活していくのに必死に働いているので、子供のことは学校に任せきりで PTA 活動などは余裕がないと思います。私の

ように日本の学校の関わりがよく分からない外国人がたくさんいると思います。役員や PTA 活動の仕組みなど、日本語もまだよく理解出来ず、どう関わればいいのか戸惑ったまま離れて行ってしまいがちです。この点について、もし外国人のためにサポートする組織があれば、子供を持つ外国人の保護者も学校や地域との関わりがうまく出来、親の活動を見ている子供たちもきっと自分も日本人の輪に入っていると思えるでしょう。

日本で生活を送って来た 20 年間を振り返って、辛いこと苦しいこともありましたが、自分を成長させてくれたのも日本のお蔭だと思っています。これからももっともっと日本のことを知り、面白い発見をして日本の魅力を伝えていきたいと思っています。

#### ★☆☆「新井さんと北本市国際交流ラウンジ委員会」

北本市国際交流ラウンジ委員会 委員長 金子行男 ★☆☆

北本市は埼玉県中央部にあります。北本市国際交流ラウンジ委員会（以下、ラウンジ委員会）は活動を開始して 20 年、毎週日曜日の日本語教室以外に交流会や行事をたくさん行っています。以前は南米の方の参加が多かったのですが、現在は中国などの国際結婚の方の参加も多くなっています。

平成 23 年に行った「第 94 回 もっと知ろう友達の国」はタイをテーマとしました。この企画は外国人市民の方を講師として招き、その国の様々な文化や生活を身近に学ぶ貴重な機会です。

「タイの生活と文化について」というタイトルで 新井ナートタヤーさんに講師をお願いしました。私自身も勤務先のタイ工場の視察に何回か行き、タイの方達の勤勉で誠実な姿勢に感銘を受け、タイについて大変興味深く思っていたところであり、新井さんを通してタイへの理解や親しみが增えるのはとても嬉しいことでした。

その 1 年後に「タイ語講座」を開くことになり、再び担当していただきました。言葉だけでなくタイ料理も紹介してくださいました。平成 27 年秋の 20 周年記念祝賀会では、中国、ベトナム、ブラジルの方たちとともに、日本での生活についても語ってくださいました。このように新井さんは、ラウンジ委員会の活動にとって大きな存在となっています。

---